



新型インフル発生

「人から人」感染懸念

WHO警戒 世界的大流行も

政府が対策本部

【ジュネーブ27日共同】

メキシコや米国で発生した豚インフルエンザの人への大量感染を受け、世界保健機関（WHO）は二十七日、世界の警戒水準（フェーズ）を現行の「3」から、「4」に初

「3」から、豚インフル

エンザウイルスが人から人への感染力を十分に得た段階を示す「4」に初

めて引き上げた。新型インフルエンザ発生を認定したことになる。日本を

含む各国に感染が広がり、世界的な大流行となる恐れがある。

これを受け日本政府は、麻生太郎首相を本部長とする対策本部の設置を決めた。検疫強化をは

じめウイルスの国内侵入防止と在外邦人支援の対策を進める。

米国やメキシコを中心

に、国際的な人の移動が制限されるとみられ、景気低迷にあえぐ世界経済への影響が懸念される。

WHOは二十八日に開く予定だった緊急委員会を前倒しし、二十七日に開催、警戒水準引き上げを決めた。水準引き上げは二十五日の緊急委員会でも検討したが「さら

人への感染はメキシコ以外に米国、カナダ、さらにスペイン、英国でも確認され、欧州に広がった。メキシコでは二十七日までに感染が確認されたか、感染の疑いがある死者は百四十九人となった。

ワクチン開発には半年程度かかるとされる。二十世紀には三回のインフルエンザの世界的流行があり、一九一八年発生

の「スペイン風邪」では世界で約四千万人が死亡した。



27日、マスクを着け、メキシコ市からシカゴ空港に到着した人たち

(AP共同)

海外での発生確認

- 発生国からの入国を空港・港の計7カ所に限定し検疫
- 入国者の健康監視、発生国からの外国人の入国制限
- 発生国に滞在する邦人の帰国支援、発生国への渡航自粛勧告
- 新型ウイルスに対応するワクチンの開発・生産要請

国内での患者発生初期

- 患者は感染症指定医療機関に入院
- 抗インフルエンザウイルス薬の予防投与
- 患者発生地域の学校休校、会社の事業縮小、外出自粛要請
- 発生地域が離島などの場合、地域封鎖を検討

感染拡大・まん延・回復段階

- 抗インフルエンザウイルス薬の予防投与見合わせ
- 新型ウイルス対応ワクチンの接種
- 市町村は高齢者ら社会的弱者に食料提供などの支援

政府の対策行動計画に基づく新型インフルエンザへの主な対応